

## 第1回～第3回 特別委員会の意見及びその対応

【第4章・第5章に関する意見】

No	対応箇所	委員の意見	対応内容
1	2	総合計画審議会が出た意見は、人口、雇用、環境に関するものが多い。大柱2「海と緑を生かした活気あふれるまち」を分割し、この3つは柱を独立すべきだ。まさにこの3点は、今の時代の趨勢であり、また横須賀を象徴する課題だ。柱を再構築するため計画変更が必要だと思う。わかりやすい計画にもなる。	今回、基本構想の改定は行わない方針ですので、基本構想で位置付けられている大柱は、そのまま生かしていきたいと考えています。
2	2-(2)-②-ア 2-(2)-③-ア	大柱2の中柱2「魅力あふれる農水産業の振興」に3つの小柱がある。この3点は大切。農水産業は後継者不足という深刻な問題を抱えている。これに対する支援も小柱に入れてはどうか。	農水産業の後継者不足については、生業として成立する経営基盤をつくるのが最も効果的な対策であると考えます。そのために、意欲的な生産者を支援する2-(2)-②-アと豊かな農地・漁場づくりを進める2-(2)-③-アを施策に位置付けました。
3	2-(3)-①-ア・イ・ウ	総合計画審議会から、「中小企業は資本等は小さいがネットワークを組むことでいくつかのものをつくれる」という意見がでてくる。今まであまり光が当たらなかった、中小企業に対する支援も考えてほしい。	ご指摘の趣旨は、既存事業者の新たな取組みを支援する施策である2-(3)-①-ア～ウに盛り込みました。
4	2-(3) 2-(4)	大柱2「海と緑を生かした活気あふれるまち」の中柱1と中柱2は、大柱のフレーズに合うが、中柱3「産業の成長支援と企業誘致」と中柱4「雇用の安定と働く環境の充実」は合わない気がする。これからの10年を考えたとき、海と緑を生かした企業誘致が果たしているのか。新しい基本計画をつくるのだから、現行の施策体系にこだわらない方がいい。新たな柱をつくる検討も必要だ。	「海と緑を生かした活気あふれるまち」は、自然を守り、また自然との共生のもとに、日常生活や経済活動を充実させていくという趣旨の柱です。自然環境と産業・経済の調和の取れたまちを目指すという考えが込められており、基本構想の「まちづくりの基本的考え方」の一つである「共生」に通じるものです。今回、基本構想の改定は行わない方針ですので、基本構想で位置付けられている大柱は、そのまま生かしていきたいと考えています。
5	2-(6)-①-ア	大柱2の中柱6「可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約・統合」は、本市が米軍や自衛隊に対して直接要望するものなのか。それとも国に対して行うのか。国が相手なら、それがわかる文言を入れるべき。	ご指摘を受け、施策2-(6)-①-アを「国に対して、可能な限りの米軍基地の返還と自衛隊施設の集約・統合を要請します」という内容にしました。
6	2-(6)-①-ア 2-(6)-②-ア	米軍基地の返還や自衛隊施設の集約・統合を謳うからには、もっと具体的な方針を示すべき。例えば、返ってきたら、「こういう使い方をする」とか「何に使う」とかを盛り込むべき。	米軍基地の返還や自衛隊施設の集約・統合の要請、旧軍未利用財産の早期転用について、確実に実現するとは言えない本市の要望等を計画に載せるとなると、ある意味市民に期待を持たせることとなります。従いまして、より具体的な方針を基本計画で示すことは難しいと考えています。
7	3-(1) 3-(2) 4-(4)-②-ア	子どもを産む環境がないと、転出人口の増加に繋がる。是非、対策を進めてほしい。また、旧市立横須賀高校の跡地で、学校の誘致を進めていたが上手くいかなかった。今後は横須賀にも優秀な高等学校があったほうが良い。そういった意味で、子どもを産んでから学校に行くまでの施策を充実させてほしい。	出産環境については、3-(1)-①-イで「助産師等への支援」を位置付けるとともに、4-(4)-②-アで「医師・看護師確保対策」を位置付け、充実する考えです。また、生後から学校に通う段階までの施策については、3-(1)-①・②、3-(2)-①・②・③で位置付けており、これらの施策により、出産・育児環境の充実を図るとともに、生きる力を育むための基本的な人づくりを行う教育や特色のある教育に取り組み、人間性豊かな子どもを育成していく考えです。

No	対応箇所	委員の意見	対応内容
8	3-(1)-①-オ 3-(1)-②-エ	新たな基本計画では、仕事場の充実を進めていく必要があると改めて感じた。また、子どもを産み育てやすい環境づくりも手厚くする必要があると思う。	3-(1)-①-オの「保育サービスの充実」や3-(1)-②-エの「子どもが放課後を過ごす場の充実」などの施策を位置付けて、子どもを産み育てやすい環境づくりを推進することで、より働きやすい環境づくりにつなげていきたいと考えています。
9	4-(2) 4-(5)	計画は、市民に理解してもらうことが重要。したがって、外来語は極力避けるべき。例えば、ユニバーサルデザインやテーマコミュニティは、日本語で表現した方がわかりやすい。	「ユニバーサルデザイン」については、他自治体の計画書などでも一般的に使われている用語であり、また「誰もが利用しやすい環境づくり」という従前の「バリアフリー」よりも一歩進んだ概念であることから、基本計画で積極的に使用することで市民の皆様にも広めていきたいと考えています。また、コミュニティについては、町内会などの地縁に基づいたものとNPOなどのテーマ(課題)に基づいたものが一般的に普及しており、その概念を基本計画で広めていきたいと考えています。計画書内で使用用語については、難解なものがないか、全体を通してあらためて精査したいと考えています。なお、最終的な計画書では、用語解説を盛り込む考えです。
10	5-(1)-④-ア	大柱5の中柱1「災害・緊急事態に強いまちづくり」に、本市独自の「災害や緊急時の米軍、自衛隊との協定」も入れてはどうか。負のイメージだけでなく、良いイメージも付け加えたほうがいい。	ご指摘の趣旨は、施策5-(1)-④-アに盛り込みました。この施策は、自然災害のほか、あらゆる事故に対する総合的な事前・事後の対策を位置付けたものです。ご指摘の米海軍や自衛隊のほか、市民、事業者、警察などとの連携で進める取組みですので、この2者との協力関係だけを施策に表現することは控えました。
11	5-(1)-④-ア	原子力艦船の入港で不安に思っている市民も多い。この点の対応についても、計画に反映してほしい。	ご指摘の趣旨は、施策5-(1)-④-アに盛り込みました。この施策は、自然災害のほか、あらゆる事故に対する総合的な事前・事後の対策を位置付けたもので、原子力災害への対策も含まれます。
12	5-(1)-④-ア 5-(2)-③-ア	市民アンケートでは、「基地が無いほうが良い」とする回答が多い。またその理由のうち約半数が「犯罪や事故が心配だから」としている。こうした市民の思いを計画に反映すべきだ。	米軍基地の事故について、施策5-(1)-④-アに盛り込みました。この施策は、自然災害のほか、あらゆる事故に対する、総合的な事前・事後の対策を位置付けたものです。この中に米軍基地で起こり得る事故への対策も含まれます。また、米軍人の犯罪については、施策5-(2)-③-アに盛り込みました。この施策も、防災・事故の体制と同様に、様々な犯罪を対象としたもので、米軍人の犯罪も含まれます。
13	全般	国際海の手文化都市と聞くと、一般的にすばらしい都市をイメージする。基本計画でこれを目指していくわけだが、実現するための施策が足りないと感じる。	国際性という視点では、1-(1)-1-イ、1-(1)-③-ア・イ、3-(2)-②-イなど多くの施策で捉えています。またこの他、海を含めた自然環境や文化に関する多くの施策も位置付け、国際海の手文化都市を目指していく考えです。
14	第2章「計画の条件」 第3章「重点プログラム」	若者の雇用の創出と安定化は、今の横須賀には大切。片や農水産業は後継者不足という問題に直面している。こういった面の連携も必要だと思う。中柱4の小柱に「雇用の創出」といった内容を加えることも考えられるのではないかな。	雇用は、幅広い分野の施策を通じて創出されるものと考えています。したがって、産業分野の一つの小柱に位置付けるのではなく、計画全体に共通する目標の一つとして、第2章「計画の条件」や第3章「重点プログラム」の中で、方向性を示していく方針です。
15	第2章「計画の条件」 第3章「重点プログラム」	小柱として「雇用の創出」を入れるべきではないかな。	雇用は、幅広い分野の施策を通じて創出されるものと考えています。したがって、産業分野の一つの小柱に位置付けるのではなく、計画全体に共通する目標の一つとして、第2章「計画の条件」や第3章「重点プログラム」の中で、方向性を示していく方針です。

No	対応箇所	委員の意見	対応内容
16	第2章「計画の条件」 第3章「重点プログラム」	是非、雇用の充実をあらゆる方法で追求してもらいたい。その意味で、誘致とは別に既存産業への手当でも必要と考えるが、方向性を持っているか。	雇用は、幅広い分野の施策を通じて創出されるものと考えています。したがって、産業分野の一つの小柱に位置付けるのではなく、計画全体に共通する目標の一つとして、第2章「計画の条件」や第3章「重点プログラム」の中で、方向性を示していく方針です。
17	第2章「計画の条件」 第3章「重点プログラム」	雇用に力を入れていることがわかる柱立てが必要だ。例えば、大柱2に、中柱3「産業の成長支援と企業誘致」と中柱4「雇用の安定と働く環境の充実」があるが、この2つを一括した柱立てでも考えられるのではないか。	雇用は、幅広い分野の施策を通じて創出されるものと考えています。したがって、産業分野の一つの小柱に位置付けるのではなく、計画全体に共通する目標の一つとして、第2章「計画の条件」や第3章「重点プログラム」の中で、方向性を示していく方針です。なお、中柱3は産業全体の成長を目的としたもので、中柱4は中小企業の労働環境の改善を目的としたものです。それぞれ目指す観点が違うので、中柱としては別個にするのが望ましいと考えています。
18	第3章「重点プログラム」	施策の中に、「世代間の交流」という文言を是非入れほしい。	世代間交流については、個々の施策で捉えていくものではなく、計画全体の共通理念と考えていますので、第3章「重点プログラム」などで示す考えです。